



# 波紋

## 子どもたちのためにできることを 牛のように確実な歩みで努力しよう

- 「牛も千里、馬も千里」を忘れずに
- 拡充した組織の更なる見直しを
- 子どもに寄り添う研究の実践をめざして

本年度もどうぞよろしくお願いいたします

認定特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター

理事長 前田 博明

認定特定非営利活動法人  
教育活動総合サポートセンターだより  
「波紋」第18号  
発行人 前田 博明  
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター  
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8  
TEL : 044-877-0553 FAX : 044-877-0980  
E-mail : support0731@luck.ocn.ne.jp  
ホームページ : http://www.kks-support.sakura.ne.jp/  
印刷 西桜印刷株式会社  
TEL : 03-3568-2543

サポートセンターの設立から18年目、令和三年度がスタートしました。今年度も設立の理念「子どもたちに力を」をモットーに、約70人の活動会員の皆様とともに、力を合わせて参りたいと思います。

また、昨年12月に皆様のご協力で、「認定NPO法人」資格の更新を無事終えることができました。この更新手続きの中で、「社会に対する貢献」や「コンプライアンスの向上」など、組織や運営等について新たな視点で見直していく必要性を強く感じました。そのため、拡充した組織の更なる発展のため、「情報公開」、「有給休暇の取得」、「会計処理」、「文書管理」などに適切に取り組んでいきます。

設立当初からサポートセンターの諸活動にご支援を頂いている行政関係機関関係者、市内学校等教育機関に加え、私たちの願いである「子どもたちに力を」に賛同する企業、賛助会員からのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。

今年度のスローガンの中に掲げた言葉「牛も千里、馬も千里」は、遅い早いの違いがあっても、行き着く場所は同じなので、慌てなく

でもよいという意味です。この言葉のもと、サポートセンターの存続と、更なる発展に向けて一丸となつて頑張りたいと思っております。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



## 事業計画

本年度は昨年度の認定更新をうけ、「子どもたちに力を」の法人設立の理念に基づき、定款に定められた9つの各事業がさらに効果的に活動できるよう、組織機能の一層の充実を図ってまいります。

### ①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業

- ア 教育・福祉相談事業（自主）
- イ 支援を必要とする子の保護者の会事業
- ウ 神奈川県青少年センター「フリースペース等事業費補助」事業

### ②適応指導に関する事業

- ア 子ども包括支援事業（子どもサポート南野川）

- イ 地域における子ども支援と拠点づくり事業（子どもサポート旭町）

### ③学習支援に関する事業

- ア 学習支援事業
- イ 地域子ども子育て活動支援助成（補助）

- イ 幸区地域課題対応事業（子どもサポート宮ノ下）

- ウ 川崎市学習支援・居場所づくり事業川崎区

- エ 川崎市学習支援・居場所づくり事業幸区

- オ 夏休み特別講座（学習支援 幸・日吉教室）

- カ 科学教育の普及・啓発助成事業（補助）

- キ 地域の子子屋事業（サイエンスキッズ）

- ク 地域の子子屋事業（寺子屋 上作延）

- ケ 地域の子子屋事業（寺子屋 さぎぬま）

- コ 地域の子子屋事業（寺子屋 富士見つ子）

- ク 地域の子子屋事業（寺子屋 ハッピータウン分教室）

- ④特別支援教育に関する事業

- ア 中原区子どもの発達支援事業（中原区保護者ミーティング）

- ⑤体験活動等に関する事業

- ア 適応指導教室あさお体験広場に係る運営管理業務（のびのびファーム）

- ⑥研究研修等に関する事業

- ア 自主研究（自主）
- イ 川崎市教育会館運営管理業務



QRコードですぐに接続



「川崎教育活動」で検索!

- イ ふれあい体験事業（自主）

- ⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業

- ア 臨時の任用教員研修等指導員配置事業
- イ 教育活動サポート配置事業
- ウ 特別支援教育サポート事業
- エ 営繕業務委託

- ⑧講演会等の企画運営に関する事業

- ア 文化講演会事業（自主）
- イ パネルディスカッション（自主）
- ウ 教育課題研修会（自主）

- ⑨文化・スポーツ活動推進に関する事業

- ア 大山街道ふるさと館管理運営業務（共同運営）

- （東條）

### 大山街道ふるさと館

令和3年度、新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、感染防止に細心の注意を払い各事業を行います。

企画展は市民ミュージアム主催の川崎水道展も入れ5回・記念講演会2回、ふるさと探究講座は3回、街道学習講座は春2回、大山寺迄と秋は赤坂御門から3回、ふるさとまち歩き講座も2回実施します。また、小・中学生に向けて、子ども探検クラブ、ふるさと発見講座、出前授業、職場体験等、地域学習の支援も充実を図ってまいります。

ぶらり散歩やまちのマイスター体験講座、秋と冬の館まつりも地域の協力を得て行い、展示や広報の充実をはかります。(石川)

### 教育会館・教育相談

一昨年の冠水被害後、一部会議室の利用が可能になりましたが、空調設備の復旧が間に合わず、皆さまには、ご迷惑をお掛けし申し訳ありません。恐縮ですが、冷暖房復旧には、時間がかかりそうです。

暫くの間、開館時間は昨年同様朝9時〜午後5時で、夜間の利用はできません。利用可能会議室は、1階の第1第2会議室と2階の大会議室、第3・第4・第5会議室です。

担当職員は、朝8時30分〜午後5時30分までおりますので、お気軽にご相談ください。(市川)

### 臨時的任用教員研修等指導員配置

平成30年度より教職員の資質向上の一環として臨時的任用教員に対して研修を行うようになり4年目を迎えるようになっております。初めて採用された臨任者(正規職員)を巡回の基本対象とし、また学校長からの要望により、経験のある臨任者や非常勤講師に対しても本研修が適用され、幅広い研修として実施しております。

指導者が学校へ伺い、授業を見た後、様々な視点から研修者に対して指導・助言を行っております。研修の機会が少ない臨任者にとって非常に有効な研修となっております。(海老沢)

### 学校サポーター配置

川崎市立小・中・高等学校の指導補助者(サポーター)に関わる事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。大学生を中心に、教員経験者地域の協力者の約700人の方々が、教育活動や特別支援教育のサポーターとして、市内の小・中学校・高等学校に配置され、それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。

さらにも多く、各学校から、サポーターへの感謝とともに活動に大きな期待をいただいております。(吉田)

### のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けと収穫など食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右されますが、昨年度は大根の途中観察から収穫を迎え、大きな大根に大喜びでした。農場の管理をしているボランティアの方々には感謝です。(前田高)

### 令和2年度自主研究

その結果、子どもの多様な不安を把握することができ、支援の手掛かりを得ることができました。また、不安は絶えず変動しているため、柔軟に変える必要があることもわかりました。新型コロナウイルスの影響は、様々な形で見られ

合を占めていることは変わっていないと考えられます。今年度は新型コロナウイルスの影響も調べました。

しかし、不安が多く割合を占めていることは変わっていないと考えられます。今年度は新型コロナウイルスの影響も調べました。

その結果、子どもの多様な不安を把握することができ、支援の手掛かりを得ることができました。また、不安は絶えず変動しているため、柔軟に変える必要があることもわかりました。新型コロナウイルスの影響は、様々な形で見られ

### 子どもに寄り添った多様な支援の実現に向けて

不登校の子どもの不安を受け止めるために

昨年度からの継続で、「子どもの不安」に焦点をあてて研究をすすめました。文部科学省の調査項目が変更されて、不登校要因の中で、「不安」の割合がわからなくなりました。

しかし、不安が多く割合を占めていることは変わっていないと考えられます。今年度は新型コロナウイルスの影響も調べました。

その結果、子どもの多様な不安を把握することができ、支援の手掛かりを得ることができました。また、不安は絶えず変動しているため、柔軟に変える必要があることもわかりました。新型コロナウイルスの影響は、様々な形で見られ

### 研究報告会から

今年度は、コロナウイルスの影響で開催が心配される中、研究報告会は、研究内容と不登校経験者や不登校の子



登校の子をもつ保護者の体験が報告され、所員を含めて27名の参加がありました。



### 参加者の感想の

「寄り添う」という言葉はよく使われるが、どう寄り添うのか。どうなれば寄り添ったと言えるのか。というところまで踏み込んだのが大変有意義に思えました。(PTA関係者) 現在、我が子がコロナで休校した後から学校へ通うのが難しくなっています。このような会に参加することで何か今後につなげられる情報がほしいと

### 教育相談案内

044-877-0553

★不登校や学習不振など、子ども自身や保護者が抱えている悩みや困り感、不安などについて、経験豊かな相談担当者が一緒に考え、解決に向けて支援していきます。対象者は、小・中学生を中心に、その保護者、学校関係者などです。学習支援については、担当者と連絡を取りながら、個別に学習支援を行っています。相談や学習支援を希望される

方は、お気軽にお電話ください。

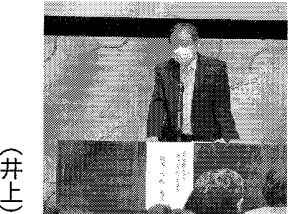
電話受付 月〜金曜日 9時〜17時

★「支援を必要とする子の保護者の会」を、年3回開催しています。保護者同士で情報交換をしたり、体験者から話を聞いたりする場を、今年度も計画しています。詳細は当サポートセンターのホームページをご覧ください。(常木)

思い参加しました(保護者) 不登校経験者や保護者からの生の声を聞く機会も頂けて良かったです。エネルギーのたまわってない子に、学校に求められる条件づくりを提示するのはかえってストレスになることがわかりました。(教員)

指導講師では、横浜国大の岡田守弘名誉教授より、温もりのある

関係、信頼のもてる関係作りや確かな主観、リサーチマインドの大切さについてお話がありました。(井上)



# 学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

## ものづくり

いつも木曜日にはサポートセンターで、家の模型を作っています。いろいろなところを工夫しています。

屋根には60本のようにしきつめました。大変でした。木で作ったしよじには、和紙をはって、開くようにしました。家の中には電気もつけて、中がちゃんと見えるようにしました。ぼくは、家の中でゆつくりしたいと思いました。

宮ノ下では、子どもと学習支援担当が一对一で学習をします。一人一人の子どもの気持ちに寄り添いながら支援をすることで、学習のサポートとともに安心して過ごせる居場所となるよう努めています。

昨年度は、一斉休校に伴い、宮ノ下でも4月4日から5月末まで学習支援を中止しましたが、9月以降は新規登録者が増加し100名を越えました。

コロナ禍の様々な影響があります。4月からは34人の小・中・高校生が新しい道を歩み始めました。今後子どもたちを見守り応援していきます。(保崎)

作っているうちに、次々にアイデアが浮かんできました。やっぱりものづくりは楽しいと思いました。(小6 S・S)

## やさしい妹

ぼくには妹がいます。かわいいけれど自分の思い通りにならないとすねます。妹はクラスの代表の役をしているので、ぼくが遊びで妹のものを取る、朝の会でぼくのことを言うとおどしてきます。でも、本当は言っていないと思います。兄ちゃんに、はじをかかせたくないからです。

妹とぼくは、てりやきバーガーが好きです。シェイクも好きです。最近、妹とうまくいっていないと思います。学校からいっしょに帰ったり、しゃべったりしています。(小5 H・T)

## 高校進学の力を

僕は、けん玉が大好きです。ジャグリング(玉を上げる↓けん玉を1回転させる↓玉をほじく↓グリップをにぎって玉をけん先にさしたり、皿にのせたりする)したり、皿やすべり止めのふちにのせるのが得意です。サポートセンターで勉強してみようと思ったのは、高校に行くための学力がほしいと思ったからです。今、僕は国語の勉強をしています。



読む力があふること、自信になりました。これからは文を書く力も身につけたいです。(中2 C・M)

## サポートセンターに通って

私は約3年間通い、色々なことができるようになりました。国語では書く力と読む力がつきました。物語を読むのが面白くなり、自身で物語を書いたりする新しい趣味を見つけた事もできました。英語でも単語をゆつくり一つ一つ覚えられるようになり、少しだけど町や歌で使われている英語の意味がわかり、色々な感情がわいてきたりします。前までは英語を覚えても意味はないとおもっていたけど、今は絶対に重要だと思えます。

サポートセンターに通って本当に良かったと思います。(中3 H・M)

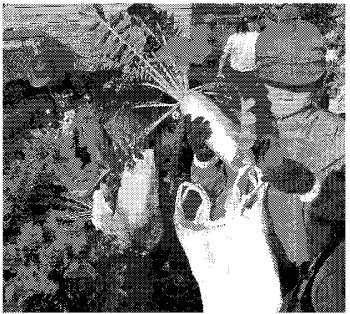
## 勉強という安心

私は中学1年生の頃からサポートセンターに通い始め、主に国語と英語を学んでいます。通い始める前は、家にいてもど

## 自分で敷いたレールを走る

息子は、中学に途中から行きませんが、サポートセンターの力も借りながら、親子で楽しい学習方法を探りました。楽器の演奏や健康のための散歩、大好きな歴史や数学・科学・哲学などの読書に時間を費やしました。環境が変われば高校に行くのではないかと思ひ、高校進学を決めました。12校のパネルレットの中から6校を見学しました。今の高校に決めたのは、学校名が気に入ったこと、校舎の中が温かい雰囲気

サポートセンターでの学習は、得るものが大きかったです。学習したい教材を自ら選び、先生がその学びをサポートするというスタイルです。また、学習の合間に楽しい話もできたようです。先生方、大変ありがとうございました。(保護者 K・T)



うにも勉強が出来ず、同学年の他の人たちと比べては不安になっていましたが、サポートセンターに通い始めてからは「自分も少しは勉強が出来ている」という事実が安心に繋がります。国語などは学校の定期テストでそれなりの点数を取れるようになってきました。今年からは高校のことも見据えて、色々な事を頑張ろうと思えます。(中3 M・M)

## 飛んでいったもの

去年の6月ごろ、勉強の遅れを取り戻したくて、サポートセンターに通い始めました。勉強が不得意な私は、授業の内容を理解できるか不安でした。しかし、不安はふとんのようになんか飛んでいきました。理解に苦しんだ問題も、先生がわかりやすく教えてくださり、楽しく勉強できました。授業を受けるたびに、自分自身が成長していることを毎回実感できています。

その他にも、授業前に雑談などをするので、毎回通うのが楽しみです。(中3 A・S)

### 学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でした

8	全日制	0	2	10
17	全日制	2	0	19
	私立高校			
	その他			
	私立合計			

が、令和元年6月から新たに小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の中学生も対象になりました。今年度は、昨年度と同様に川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員（教員OB）を中心に、学習サポート（教員OBや市民、大学生等）が子どもたちの学習支援にあたりています。

令和2年度に通所した中学3年生の29人の進路状況は次のとおりです。

(渡邊和)

### こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には子どもたちがつけてくれた愛称があります。「STEP&GO」です。不登校や引きこもりの子どもたちが安心して過ごせる居場所であり、自信をもって果立つていける場所であることを目指して10年前に川崎区の委託を受けて開設しました。年々利用者が増え、令和2年度もたくさんのお小・中・高校生が利用しました。週四日、10時～16時、コロナウイルス感染予防対策を十分に行い、旭町こども文化センター3階で、楽しく活動しています。

(小島)

### こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として開設から12年間、子どもたち自らが一歩踏み出す事ができるようにと応援してきました。自分で決める力は大切です。目標を持って学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、ものづくりで力を発揮する子、ゲームや卓球で人との関わりを学ぶ子。その内容ややり方も十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆっくり力をつけて、自信や心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。(前田純)

### 地域の寺子屋

平成26年「子どもたちが夢や希望を持つて前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- ・子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- ・地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることに、地域の教育力の向上を図ります。
- ・シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくりまします。

②活動内容

これらの目的のもと、サポートセンターでは今年度、寺子屋「上作延」「富士見つ子」「さぎぬま」に加え、外国につながる子どもたちのための日本語・学習サポートとして「ハッピータウン分教室」の4カ所で活動します。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、回数や規模を縮小せざるを得ない状況になりましたが、それぞれの寺子屋で工夫を重ねて実践して参りました。(藤田)



### 日本語支援 東小倉

日本語支援東小倉は、外国につながる子どもたちの居場所として2012年に幸区の委託を受けて開設されました。

昨年度は、緊急事態宣言のもと4月から8月まで閉室し、9月にスタートしました。登録者は17人で、小学生8人、中学生9人、中国・パラグアイ・フィリピン・インドにつながる子どもたちでした。子ども一人ひとりのニーズに応じて、日本語・国語、算数・数学時には音楽等も学習しました。今年も感染対策をしっかり行い、楽しい時間を共有できるようにします。

(堤)

### たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展学習、体験学習、実験などを取り入れた公開講座です。5日間で午前と午後、8講座が開催され、延べ800人余りの児童が参加します。葉脈標本作り・自由工作・楽器を使っての音楽会・英会話・パソコン操作等盛りだくさんの活動です。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染防止のため8月の4日間、開講したのは2講座で少人数の参加でした。それでも児童同士や講師との関わりが、一層強くなり、充実した活動ができ、子どもたちにも参加した保護者にも笑顔が満ちあふれていました。今年もいつも通りの活動ができることを願っています。(石田)

### サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動は、今年度で16年目になります。昨年度の出前科学教室では、感染症予防のため、消毒やマスク・フェイスシールド着用を徹底し、延べ64人の参加がありました。冬のサイエンスキッズでは、延べ105人の参加がありました。

「発電機でロボットを作ろう」等、多くの題材で改良された活動となりました。参加された皆さんに喜んで頂きました。今年度も、子どもたちと一緒に、自然の事物・現象を考え、楽しい物づくりに取り組みます。

(鈴木)

### 編集後記

東日本大震災、福島原発事故から十年が過ぎた。あの時は人と人のつながりが求められ、「絆」という一文字に集約されました。一年前、全国一斉臨時休校に始まり、経験したことのない緊急事態宣言と続き、いまま世界中に広がるコロナ禍は、人と人のつながりを分断し、生命の最後のゆらめきさえ、誰にも見とつてもらえませんでした。

そんな中だからこそ、不登校などに悩む子どもたちにとって「救いの場」や「セイフティネット」として、当サポートセンターの役割は大きいのではないかと改めて思います。

(東條)